

浮田 徹也(うきた てつや)先生のプロフィール

●勤務先 医療法人せせらぎ会 浮田医院

●経歴

1977年 京都大学医学部卒業、京都大学医学部附属病院産婦人科

1979年 大津市市民病院産婦人科

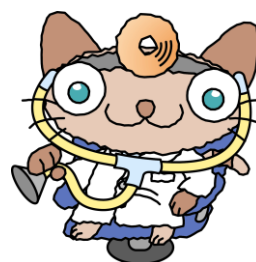
1986年 公立高島総合病院産婦人科

1990年 医療法人せせらぎ会 浮田医院開院

2006年 滋賀医科大学臨床教授

現在、日本東洋医学会専門医 日本東洋医学会指導医〔漢方治療は全科〕、
産婦人科認定医 母性保護法指定医

●専門 産科、婦人科、内科、小児科



◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

昭和58年頃、母校(京大)から、更年期障害の漢方治療の治験をするように、指示されたのが始まりです。初めは、古方、後世方、中医学と教科書的な書物を2年ほど読みましたが、診療にしてみてもさほど効果が上がりませんでした。

昭和60年からは、故柴田良治先生に師事することができ、症例や古医書解説を通じて四診を学ぶことができました。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

婦人科領域では、月経調節(子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣機能不全)、不定愁訴(更年期障害など)、不妊症、悪性疾患など。

産科領域では、切迫流早産、妊娠高血圧症候群(浮腫も含む)、妊娠中合併症(感冒、頭痛、めまい、インフルエンザ、神経痛、皮膚炎や湿疹、不眠、動悸等)に応用しています。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合は？

漢方薬8割、西洋薬2割です。

◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

西洋医学で診断した疾患に対して、漢方医学的証で分類する治療体系(証を用いたクリニカルパス)もできあがりつつあるでしょう。

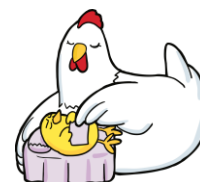


◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なされたことがありますか

25年ほど前ですが、胆石発作（2cm 5個）の時、柴田先生に勧められ、良枳湯 を服用して完治したことがあります。

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

漢方診療の得意な医師の指導を受けることが近道だと思います。いくら書物で学習しても実際の診療には、少ししか役立ちません。



◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

漢方薬も西洋薬もそれぞれ得意分野と不得意分野があります。上手に治療を受けて下さい。

◆座右の銘、好きな言葉がありましたら教えてください

追新求異と温故知新。古いものの中にも現代に生かせるものがありますが、常に捨てていかなければ新しいものは手に入りません。

◆その他何かご意見がありましたら、お願いいたします

各都道府県に東洋医学医会ができて、医師会の中での発言力を持つ必要があります。

各都道府県の医師会誌に東洋医学会の研修会等の記事がもっともって掲載されるようになればいいと思います。

注意：先生へのインタビューは、当会が2010年11月に行った内容です。